

吉田精一編

日本文学鑑賞辞典

近代編

埼玉大学教授・文学博士

吉田精一 編

日本文学鑑賞辞典

近代編

東京堂出版

許 製
不 複

日本文学鑑賞辞典

(近代編)

定論は猶またはカバ
一に表示してあります。

昭和三十五年六月三〇日 初版発行
昭和五十二年四月三〇日 十回版発行

編者 吉田精一

発行者 岩出貞夫

印刷所 文殊印刷有限公司

製本所 渡辺製本株式会社

発行所 株式会社 東京堂出版

東京都千代田区神田錦町三ノ七(千三三)
電話 東京(三三)三五四一 振替 東京(千三三)

序 文

文芸作品は、社会的、歴史的産物として、その作られた社会や、歴史的状況を反映していることはもちろんである。われわれはそれを通して特定の時代の、特殊な環境にあった人間の、思想や感情や、また彼らが追求していた問題を、ききとることができる。一つの作品を理解するにあたり、われわれはことに社会環境と周囲の条件とをこまかく調査することによって、その意義を正しく読みとる努力をわれわれ自身に課さねばならない。

しかしまた、文芸作品はたんなる記録や報告ではない。それが長い年月の風雪にたえて、今日の読者にもうったえる力をもっているのは、そこに時間と歴史とをこえる不滅の生命力と、不変の美しさを内在しているからにはかならない。

一見すれば前者は、「知る」ことを中心命題とし、後者は、「味う」ことを目的とし、ともに別のみちを歩むように見える。前者が「真」をめざすならば、後者は「美」を志しているかのようなのである。しかしわれわれの考えるところによれば、両者は決して別のものではない。正確に「知る」ことによって、ふかい「味い方」が生まれ、深い「味い方」を待って、正しく「知る」ことができる。われわれの仕事の理想は、それが容易には達せられないことを承知の上で、パスカルのいわゆる「幾何学的精神」と、「繊細な精神」との合致の上に置かれねばならない。

従来の文学辞典は、辞典としての客観性を尊重するという意味もあって、重点を主として文献学的な方面に置き、深く味うという鑑賞面には粗漏であった。当然、「辞書的な」という形容詞が表現する、平板

で砂を噛むような叙述でみたまされる場合が多かった。ことに国文学方面のものには、その種の傾向が強く、辞典ほど面白い読み物から遠い性格のものはなかったのである。

本書は、この点にかんがみ、正しい文献学的な調査研究は踏まえつつも、それを幾分裏にまわし、意義内容をいかに読み味うべきかという、鑑賞面を主眼として、新しい編纂をこころみた。「文学鑑賞辞典」と銘うったのは、その理由からである。

このために、古典・近代の二編を通じて、日本文学史上の名作佳編をできる限り網羅し、忠実な解説に加えて、正しく深い鑑賞による価値判断と、史的意義の設定をこころみた。出来栄えについては、大方の批評を待つべきだが、作品の本質的な解明と味解という点では、在来の辞書類から数歩前進することを期したのである。

初学の人たちにとっては、日本文学鑑賞の手引き書となり、研究者や教授者にとっては参考して役立つものとなり、一般の人々にとっては、独立した興味ある読み物となるというのが、この書編集のねらいの一つでもあったが、多少ともその目的が達せられているとすれば、編者としてよろこびに耐えないのである。

なお、このしごとのために、中堅、新進の専門家数十名の参加をねがったが、ことに編纂者としては、村松定孝、石丸久、関良一、三好行雄の諸氏に担当していただいた。ここに記して深い感謝の意を表する。

昭和三十五年首夏

吉田精一

凡例

△本書は、明治・大正・昭和の三代にわたる日本文学全般から約六五〇の作品を選び、各作品に鑑賞を施すことを主眼とした。

△項目は、各作品を五十音順に配列して構成した。したがって、作家名の方から作品を検出するときは、巻頭の作家別項目表または巻末の索引によると便利である。

△各作家の略歴は、「作者」として項目の末尾に付した。ただし主なる結社関係、主要作品などをあげるに止めた。（各作家についての詳細は弊社既刊の『近代日本文学辞典』を参照されたい）

一作家で二作品以上収載した場合、その作家の略歴は、五十音順による最初の項目末尾に付した。たとえば、志賀直哉の場合、『城の崎にて』『和解』『小僧の神様』『暗夜行路』を収めたが、その略歴は『暗夜行路』の項の末尾に示してある。

△小説・戯曲の場合は、「梗概」を設け「鑑賞」の一助とした。作品集（随筆集・詩集・歌集・句集その他）を項目とした場合は、その中の代表的な作品をとくに取りあげて解説・鑑賞を施した。

用語・符号・索引

△引用文は、原則として原文のままにした。

△難読の語には、つとめてルビを付した。ルビは原文中にあつたものも現代表記法に統一した。

△作品名・書名・雑誌名・新聞名には、すべて「」をつけた。

△本文中に*印のある作品名は独立項目として収録されていることを示す。

△短歌・俳句の引用は、A Vで示した。代表作品をよくに解説、鑑賞するときはこれを別行に示し、A Vは省いた。

△作品の発表年月、雑誌の発行年月に、明・大・昭和あるのは、それぞれ明治・大正・昭和の略。たとえば、（明三九・三）は明治三九年三月を示す。

△索引は、「人名索引」と「作品・事項索引」とに分け結社・雑誌などは後者に含めた。

執筆者・編集者

△各項目の執筆は、それぞれ専門家に委嘱し、各項目の末尾にその姓名を明記した。

△編集は、吉田精一が責任者となり、委員として石丸久、関良一、二好行雄、村松定孝の四名が参加した。

凡 例

1. 本索引は、全項目および文中の人名・書名・作品名・事項の主なものを五十音順に配列した。旧かなづかいの作品名なども、現代かなづかいによって配列した。

(例) あひゞき → あいびき

2. ページの太字は、〔作者〕略歴のついている項目および採録した作品を示す。
3. 〔作者〕略歴の中の作品名・雑誌名・結社名などは摘出していない。
4. 同名の作品・事項のある場合は、カッコ内にそれぞれの作者名または種類、内容などを明示した。
5. 文中に引用した短歌・俳句などは、冒頭の一句をとり、カッコしてその作者名を示した。詩は各作品の標題を示した。

作家別項目表

作家別項目表 目次

(五十音順)

会津八一……………	三五	鹿鳴集……………	三五	阿波野青畝……………	三〇三	風にそよぐ葦……………	三〇三
青木月斗……………	三三	羅生門……………	三七九	万兩……………	三〇三	蒼氓……………	三〇三
月斗翁俳句抄……………	三三	安部公房……………	一三三	安西冬衛……………	三三三	人間の壁……………	三〇三
阿川弘之……………	三七	壁……………	一三三	軍艦茉莉……………	三三三	石坂洋次郎……………	三〇三
雲の墓標……………	三七	阿部次郎……………	一三三	飯田蛇笏……………	三三三	石中先生行状記……………	三〇三
秋田雨雀……………	三七	三太郎の日記……………	一三三	山嵐集……………	三三三	若い人……………	三〇三
国境の夜……………	三三	阿部知二……………	一三三	池内たけし句集……………	三三三	石田波郷……………	三〇三
芥川竜之介……………	三三	冬之宿……………	一三三	池谷信三郎……………	三三三	石原 純……………	三〇三
河童……………	三三	安倍能成……………	一三三	望郷……………	三三三	石原慎太郎……………	三〇三
蜘蛛の糸……………	三三	朝暮抄……………	一三三	石井桃子……………	三三三	石原延男……………	三〇三
戯作三昧……………	三三	有島武郎……………	一三三	ノンちゃん雲に 乗る……………	三三三	コタンの口笛……………	三〇三
玄鶴山房……………	三三	或る女……………	一三三	石井露月……………	三三三	泉 鏡花……………	三〇三
西方の人……………	三三	生れ出づる悩み……………	一三三	露月句集……………	三三三	歌行燈……………	三〇三
地獄変……………	三三	惜みなく愛は奪ふ……………	一三三	石川 淳……………	三三三	婦系図……………	三〇三
侏儒の言葉……………	三三	カインの末裔……………	一三三	夷裔俚言……………	三三三	高野聖……………	三〇三
齒車……………	三三	星座……………	一三三	諸国畸人伝……………	三三三	昭葉狂言……………	三〇三
鼻……………	三三	有吉佐和子……………	一三三	普賢……………	三三三	日本橋……………	三〇三
奉教人の死……………	三三	地唄……………	一三三	石川啄木……………	三三三	石上玄一郎……………	三〇三
		荒地詩集……………	一三三	一握の砂……………	三三三	黄金分割……………	三〇三
				悲しき玩具……………	三三三	伊藤永之介……………	三〇三
				啄木日記……………	三三三	鶯……………	三〇三
				呼子と口笛……………	三三三	伊藤左千夫……………	三〇三
				石川達三……………	三三三	左千夫歌集……………	三〇三
				生きてゐる兵隊……………	三三三		

作家別項目表

虫のいろいろ	六〇	開高 健	五七	川上眉山	一八五	碧梧桐句集	六五
尾崎紅葉	二六六	裸の王様	五七	観音岩	一八三	上林 曉	五〇
金色夜叉	二六六	葛西善蔵	二六	ふところ日記	六九	聖ヨハネ病院にて	五〇
三人妻	二六六	西をつれて	二六	川口一郎	五三	蒲原有明	五七
多情多恨	四三	梶井基次郎	五九	二十六番館	五三	有明集	五七
尾崎士郎	五五	榎 樫	五九	川口松太郎	五九	春鳥集	五〇
人生劇場	五五	加藤楸邨	一八四	鶴八鶴次郎	五九	木々高太郎	五五
尾崎放哉	四三	寒 雷	一八四	川崎長太郎	五〇	人生の阿呆	五五
大 空	四三	加藤道夫	五〇	裸 木	五〇	菊池 寛	五九
小山内 薫	六三	なよたけ	五〇	川路柳虹	五九	真珠夫人	五九
息 子	六三	仮名垣魯文	五五	路傍の花	五九	忠直卿行状記	五九
大仏次郎	一六	安愚楽鍋	一五	川 田 順	五九	父帰る	五三
赤穂浪士	一六	金子光晴	二四	鷲	五九	無名作家の日記	六四
婦 郷	一七	敵	二四	川端茅舎	一七	岸田国士	六四
織田作之助	六三	加能作次郎	七五	川端茅舎句集	一七	牛山ホテル	六四
夫婦善哉	六三	世の中へ	七五	川端康成	一六	紙風船	一七
落合直文	五七	上司小剣	五九	浅草紅団	一六	暖 沈	五九
萩之家歌集	五七	鱧の皮	五九	伊豆の踊子	六〇	北川冬彦	五七
尾上柴舟	一〇五	嘉村磯多	五九	禽 獸	二五	戦 争	五七
永	一〇五	途 上	五九	純粋の声	五〇	北園克衛	五七
小野十三郎	二四	亀井勝一郎	五九	千羽鶴	五九	円錐詩集	一〇九
大 阪	二四	美貌の皇后	五九	名人	六九	北原白秋	一〇九
於 母 影	一三	河井醉茗	五九	山の音	七〇	思ひ出	一三
尾山篤二郎	六四	塔 影	五九	雪 国	七〇	桐の花	五九
平明調	六四	河上 肇	五九	河東碧梧桐	五九	黒 檜	三三
		自叙伝	三九	三千里	五九	邪宗門	三三

作家別項目表

水墨集……………	三五	窮死……………	一五	怪談……………	一四	小山祐士……………	三二
白秋童謡集……………	五六	牛肉と馬鈴薯……………	一四〇	幸田文……………	一四	瀬戸内海の子供ら……………	三二
きたみのる……………	一〇	源叔父……………	三三	流れる……………	一五	今東光……………	四三
気遣い部落周游……………	一〇	武蔵野……………	六六	幸田露伴……………	一〇	鬮鶏……………	四三
紀行……………	一〇	久保栄……………	一〇	運命……………	一〇	近藤芳美……………	四〇
北村透谷……………	一〇	火山灰地……………	一〇	五重塔……………	一〇	早春歌……………	四〇
蓬萊曲……………	一〇	窪田空穂……………	一〇	名和長年……………	一〇	西条八十……………	三三
北村寿夫……………	一〇	鏡葉……………	一〇	風流仏……………	一〇	砂金……………	三三
駒馬哲学……………	一〇	久保田万太郎……………	一〇	調言……………	一〇	西条三鬼……………	三三
木下順二……………	一〇	末枯……………	一〇	小杉天外……………	一〇	旗……………	三三
風浪……………	一〇	大寺学校……………	一〇	はやり唄……………	一〇	斎藤茂吉……………	三三
夕鶴……………	一〇	寂しければ……………	一〇	児玉花外……………	一〇	あらたま……………	三三
木下尚江……………	一〇	道芝……………	一〇	社会主義詩集……………	一〇	赤光……………	三三
火の柱……………	一〇	久米正雄……………	一〇	五島美代子……………	一〇	白き山……………	三三
良人の自白……………	一〇	学生時代……………	一〇	母の歌集……………	一〇	童馬漫語……………	三三
木下左太郎……………	一〇	破船……………	一〇	小林多喜二……………	一〇	斎藤緑雨……………	三三
食後の唄……………	一〇	倉田百三……………	一〇	蟹工船……………	一〇	あられ酒……………	三三
木下利文……………	一〇	愛と認識との出発……………	一〇	一九二八年三月十五日……………	一〇	坂口安吾……………	三三
一路……………	一〇	出家とその弟子……………	一〇	党生活者……………	一〇	墮落論・続墮落論……………	三三
木俣修……………	一〇	黒島伝治……………	一〇	小林秀雄……………	一〇	白痴……………	三三
高志……………	一〇	渦巻ける鳥の群……………	一〇	無常といふ事……………	一〇	不連続殺人事件……………	三三
草野心平……………	一〇	源氏鶏太……………	一〇	小堀杏奴……………	一〇	嘘嘘の屋お室……………	三三
蛙……………	一〇	三等重役……………	一〇	晩年の父……………	一〇	初恋……………	三三
國木田独步……………	一〇	古泉千燈……………	一〇	五味康祐……………	一〇	佐佐木信綱……………	三三
欺かざるの記……………	一〇	屋上の土……………	一〇	喪神……………	一〇	思草……………	三三
運命論者……………	一〇	小泉八雲……………	一〇				

作家別項目表

佐佐木茂索	困つた人達	小僧の神様	下村湖人	自分は見た
三六四	三六四	三六〇	三三三	三四四
佐多稲子	四賀光子	和解	次郎物語	統春夏秋冬
三〇〇	三〇七	三〇七	三三三	三四四
くれなゐ	藤の冥	和	釈 迢空	曾野綾子
三三〇	三〇七	三〇七	三〇七	三三三
私の東京地図	獅子文六	大番	海山のあひだ	遠来の客たち
三五三	二七〇	二七〇	三〇七	三三三
佐藤佐太郎	自由学校	島木赤彦	十一谷義三郎	高野素十
六五五	二七〇	三〇九	四八七	五八六
歩道	島木健作	赤蛙	唐人お吉	初 鴉
六五五	二四〇	二四〇	四八七	五八六
佐藤春夫	赤蛙	生活の探求	春夏秋冬	高橋新吉
二一九	二四〇	三〇六	三三〇	五八六
お絹とその兄弟	島崎藤村	類	抒情詩	高橋新吉
二二九	三三三	三七七	三三〇	五八六
更生記	嵐	島崎藤村	白井喬二	ダダイスト新吉
二四三	三三三	三三三	六〇六	五八六
車塵集	家	新 生	富士に立つ影	の詩
三三三	二〇八	二〇八	六〇六	五八六
殉情詩集	エトランゼエ	千曲川のスケッチ	新体詩抄	高浜虚子
三三三	二〇八	三〇九	三三〇	一九五
退屈読本	破戒	破戒	新 村 出	虚子句集
四三三	三〇九	三〇九	三三〇	一九五
田園の憂鬱	春	夜明け前	南蛮記	鶏 頭
四七三	三〇九	三七二	三三〇	三三六
都会の憂鬱	夜明け前	落梅集	杉田久久	俳諧師
四九四	三七二	三七六	三三三	五三三
星	若菜集	島田清次郎	杉田久久女	高見 順
六三九	三七六	三〇九	三三三	三三三
里見 淳	若菜集	地上	鈴木三郎	如何なる星の下に
四四	三七六	三〇九	三三三	三三三
安城家の兄弟	若菜集	地上	生きている小平次	故旧忘れ得べき
四四	三七六	三〇九	三三三	三三三
善心悪心	若菜集	地上	薄田泣菫	高村光太郎
五九六	三七六	三〇九	三三三	四四七
多情仏心	若菜集	地上	白羊宮	智恵子抄
五九六	三七六	三〇九	三三三	四四七
椎名麟三	若菜集	地上	鈴木三重吉	典 型
八九	三七六	三〇九	三三三	四四七
美しい女	若菜集	地上	桑の実	道 程
八九	三七六	三〇九	三三三	四四七
永遠なる序章	若菜集	地上	千 鳥	高山樗牛
一〇三	三七六	三〇九	三三三	四四七
志賀直哉	若菜集	地上	芹沢光治良	滝口入道
四七	三七六	三〇九	三三三	四四七
暗夜行路	若菜集	地上	巴里に死す	わがそでの記
四七	三七六	三〇九	三三三	四四七
城の崎にて	若菜集	地上	ブルジョワ	滝井孝作
一五三	三七六	三〇九	三三三	四四七
	若菜集	地上	千家元麿	無限抱擁
	三七六	三〇九	三三三	四四七

作家別項目表

武田泰淳……………	六二	田中冬二……………	九	東京の三十年……………	四〇	当世書生氣質……………	四九
嫂のすゑ……………	六六	青い夜道……………	九	時は過ぎ行く……………	四五	牧の方……………	四五
森と湖のまつり……………	六七	谷崎潤一郎……………	三	蒲団……………	四九	寺田寅彦……………	六五
武田麟太郎……………	三〇	愛すればこそ……………	三	禮 一雄……………	七三	冬彦集……………	六五
銀座八丁……………	三〇	陰翳礼讃……………	六	リッ子・その愛……………	七三	東海散士……………	一六〇
日本三文オペラ……………	三〇	鍵……………	一五	その死……………	七三	佳人之奇遇……………	一六〇
竹中 都……………	三九	細 雪……………	三三	近松秋江……………	三三	土岐哀果……………	五八
象牙海岸……………	三九	刺 青……………	三九	黒 髪……………	三三	NAKIWARAI……………	五八
竹山道雄……………	三九	春琴抄……………	三七	別れたる妻に送……………	三三	徳田秋声……………	三三
ピルマの竖琴……………	三五	少将滋幹の母……………	三四	る手紙……………	四八	足 迹……………	三三
太宰 治……………	三五	蓼喰ふ虫……………	四〇	塚原健二郎……………	四九	あらくれ……………	三三
お伽草紙……………	三五	痴人の愛……………	四一	塚原健二郎童話集……………	四九	新世帯……………	三三
斜 陽……………	三五	田 畑 修 一 郎……………	四二	土井晩翠……………	四九	仮装人物……………	一五
津 軽……………	四〇	鳥羽家の子供……………	四〇	土屋文明……………	四九	徽……………	一七
東京八景……………	四〇	田宮虎彦……………	四三	ふゆくさ……………	六二	縮 図……………	三三
人間失格……………	四六	足摺岬……………	三三	綱島梁川……………	六二	徳富芦花……………	三三
走れメロス……………	四六	霧の中……………	一七	病閑録……………	五〇	思出の記……………	三三
晩 年……………	四六	田村泰次郎……………	五六	壺 井 栄……………	五五	黒 潮……………	三三
立原道造……………	五五	肉体の門……………	五六	曆……………	五五	自然と人生……………	三三
蘆草に寄す……………	五五	田村俊子……………	六三	二十四の躰……………	五五	富 士……………	三三
立野信之……………	五〇	木乃伊の口紅……………	六三	壺井繁治……………	五五	不如帰……………	三三
叛 乱……………	五〇	田山花袋……………	六六	壺井繁治詩集……………	五五	みみずのたはこと……………	三三
田中千禾夫……………	三七	一兵卒の銃殺……………	六六	坪内逍遙……………	二〇	徳永 直……………	三三
おふくろ……………	三七	田舎教師……………	七	役の行者……………	二〇	太陽のない街……………	三三
田中英光……………	三六	生……………	三六	桐一葉……………	二〇	外村 繁……………	三三
オリソポスの果実……………	三六						

作家別項目表

草笈	三五九	天の夕顔	三三七	中村草田男	三三九	三四郎	三六九
富安風生	三三〇	中 勘助	三二八	長 子	三三三	それから	三六一
草の花	三三〇	銀の匙	三二八	中村憲吉	三三三	彼岸過迄	三六一
豊島与志雄	三三三	中里介山	三三七	しがらみ	三三三	坊つちやん	三六四
野ざらし	三三三	大菩薩峠	三三七	中村真一郎	三三三	道草	三六八
		中島 敦	三三七	死の影の下に	三三三	明 暗	三六七
		李 陵	三三七	中村星湖	三三三	門	三六八
内藤鳴雪	三六〇	長田秀雄	三三六	村汀女	三三三	吾輩は猫である	三六九
鳴雪句集	三六〇	長田開眼	三三六	中村汀女	三三三	成島柳北	三七三
直木三十五	三五四	大仏開眼	三三六	訂女句集	三三七〇	柳橋新詠	三七三
南国太平記	三五四	長田幹彦	三三六	中谷千吉郎	三三三	西野辰吉	三七三
永井荷風	三六九	霧	三三六	冬の華	三三三	秩父困民党	三七三
あめりか物語	三六九	中塚一碧楼	三三六	中山義秀	三三三	西脇順三郎	三七三
腕くらべ	三九〇	はかくら	三三六	厚物咲	三三三	あむばるわりあ	三七三
おかめ笹	三九〇	長塚 節	三三六	テニヤンの末日	三三三	丹羽文雄	三七三
珊瑚集	三九〇	土	三三六	長与善郎	三三三	鮎	三七三
すみだ川	三九〇	長塚節歌集	三三六	項羽と劉邦	三三三	厭からせの年齢	三七三
断腸亭日乗	三九〇	中西梅花	三三六	青銅の基督	三三三	遮断機	三七三
つゆのあとさき	三九〇	新体梅花詩集	三三六	竹沢先生と云ふ人	三三三	菩提樹	三七三
日の下駄	三九三	中野重治	三八八	夏目漱石	三三三	野上弥生子	三七三
遷東綺譚	三九三	歌のわかれ	三八八	思ひ出す事など	三三三	海神丸	三七三
冷 笑	三九六	染しき雑談	三八八	硝子戸の中	三七三	真知子	三七三
永井竜男	三七七	むらぎも	三八八	草 枕	三七三	迷路	三七三
朝 霧	三七七	中原中也	三八八	虞美人草	三七三	野口雨情集	三七三
中江兆民	三七七	山羊の歌	三八八	行人	三七三	野口雨情集	三七三
一年有半	三七七	中村吉蔵	三八八	こゝろ	三七三	野口米次郎	三七三
中河与一	三七七	井伊大老の死	三八八				

作家別項目表

広場の孤独……………	五五	墨汁一滴……………	六五	白き手の鴉人……………	三五	宮本百合子……………	四八
ホトトギス雑詠全集……………	六七	正宗白鳥……………	六三	三島由紀夫……………	二四	道標……………	四二
堀口大業……………	三三	牛部屋の臭ひ……………	六三	飯面の告白……………	二四	伸子……………	五九
月下の一群……………	三三	人生まざりしならば……………	六九	金蘭寺……………	二〇	播州平野……………	五九
人間の歌……………	五九	人生の幸福……………	五九	近代能楽集……………	二〇	風知草……………	五九
堀 辰雄……………	一五	毒婦のやうな女……………	四六	潮騒……………	三〇	貧しき人々の群……………	六五
かげろふの日記……………	一五	何処へ……………	四六	水原秋桜子……………	二六	三好十郎……………	六九
風立ちぬ……………	一六	微光……………	四六	蕙飾……………	二六	炎の人……………	六九
聖家族……………	三九	マチネ・ポエティク……………	四六	三富朽葉……………	二六	三好達治……………	四九
茨穂子……………	三九	詩集……………	四六	三富朽葉詩集……………	二六	測量船……………	四九
本庄陸男……………	三九	松瀬青々……………	四六	水上滝太郎……………	二五	武者小路実篤……………	八
石狩川……………	三九	妻木……………	四六	大阪の宿……………	二五	愛 慾……………	八
		松根東洋城……………	四六	貝殻追放……………	二五	お目出たき人……………	二八
		新春夏秋冬……………	四六	三宅花圃……………	七〇	幸福者……………	二八
前川佐美雄……………	五七	松本たかし……………	四六	藪の鷲……………	七〇	真理先生……………	三〇
植物祭……………	五七	松本たかし句集……………	四六	宮沢賢治……………	六四	その妹……………	三〇
前田河広一郎……………	二九	真 船 豊……………	四六	風の又三郎……………	六四	人間万歳……………	三三
三等船客……………	二九	颯……………	四六	セロ弾きのゴー……………	六四	友 情……………	三七
前田普羅……………	二九	中橋公館……………	四六	シュ……………	六四	村上鬼城……………	一八
普羅句集……………	二九	真山青果……………	四六	春と修羅……………	六四	鬼城句集……………	一八
前田夕暮……………	二九	元禄忠臣蔵……………	四六	宮地嘉六……………	六四	村上元三……………	二五
生くる日に……………	二九	平将門……………	四六	老 残……………	六四	佐々木小次郎……………	二五
牧野信一……………	二九	南小泉村……………	四六	宮島資夫……………	六四	村上浪六……………	二五
ゼーロン……………	二九	三 木 清……………	四六	坑 夫……………	六四	三日月……………	二五
正岡子規……………	二九	人生論ノート……………	四六	宮 柵二……………	六四	村野四郎……………	二五
寒山落木……………	二九	三木露風……………	四六	山西省……………	六四	体操詩集……………	二五
竹乃里歌……………	二九						

作家別項目表

村山知義	三三	安阿章太郎	三三	山本有三	二〇	吉岡禪寺洞	二〇
暴力団記	三三	悪い仲間	三三	嬰兒殺し	二〇	銀漢	二〇
室生犀星	六	保田与重郎	三三	女の一生	二〇	吉川英治	二〇
愛の詩集	六	日本の橋	三三	同志の人々	二〇	新平家物語	二〇
あにいもうと	六	矢田挿雲	三三	波	二〇	宮本武蔵	二〇
杏つ子	三三	大閩記	三三	路傍の石	二〇	吉田一穂	二〇
芥情小曲集	三三	柳田国男	三三	結城袁草果	二〇	未来者	二〇
幼年時代	三三	海南小記	三三	山麓	二〇	吉屋信子	二〇
森 鷗外	三三	矢野竜溪	三三	横濱夜雨	二〇	良人の貞操	二〇
阿部一族	三三	経国美談	三三	花守	二〇	吉行淳之介	二〇
キタ・セクスアリ	三三	山口誓子	三三	横溝正史	二〇	驟雨	二〇
ス	三三	凍港	三三	本陣殺人事件	二〇	与田準一	二〇
雁	三三	山口青邨	三三	横光利一	二〇	五十一番目のザ ボン	二〇
山椒大夫	三三	雑草園	三三	機械	二〇	亀胆寺雄	二〇
灘江抽斎	三三	山崎豊子	三三	上海	二〇	放浪時代	二〇
青年	三三	暖簾	三三	寝屋	二〇		
即興詩人	三三	山代 巴	三三	日輪	二〇		
高瀬舟	三三	荷車の歌	三三	紋章	二〇	若山牧水	二〇
舞姫	三三	山田美妙	三三	旅愁	二〇	別離	二〇
妄想	三三	蝴蝶	三三	与謝野晶子	二〇	和田 伝	二〇
森田草平	三三	山之口 猿	三三	みだれ髪	二〇	沃土	二〇
煤煙	三三	山之口 猿詩集	三三	与謝野鉄幹	二〇	渡辺水巴	二〇
森田たま	三三	山村暮鳥	三三	櫛の葉	二〇	水巴句帖	二〇
もめん随筆	三三	聖三稜玻璃	三三	紫	二〇	和辻哲郎	二〇
森本 薫	三三	山本周五郎	三三	吉井 勇	二〇	古寺巡礼	二〇
女の一生	三三	榎の木は残った	三三	酒ほがひ	二〇		